

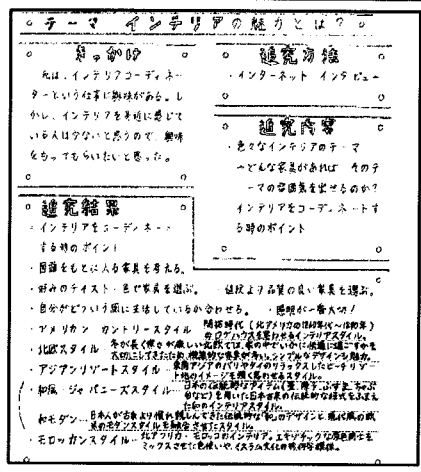
評価の観点	整理・分析	単元	1年間探究したテーマについての発表会 に向けて（3年生）	実施日時	R1年度
-------	-------	----	---------------------------------	------	------

本時のねらい 自分がこれまでの探究で大切にしてきたことや、生徒版インテンシブ学習に向けて大切にしたいことを踏まえながら、ゼミ内発表会で使用するレーダーチャートを作成することができる。

<主体的・対話的で深い学びにつなげる指導について>

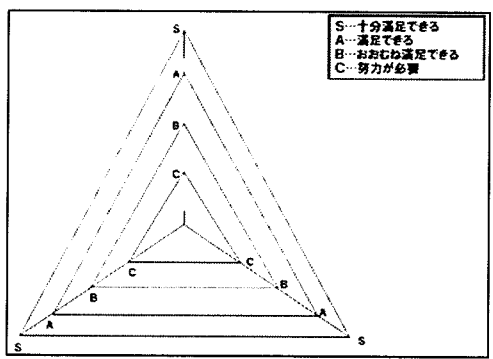
導入 【手立て①：視点をもつことの大切に気づかせる導入】

- あるレジュメを生徒に提示することで、このレジュメがよいものであるかどうかを考えさせた。生徒からは「よいレジュメです。」と答えるばかりで、具体的に何がよいのかは出なかった。そこで、どんな視点で見ると、よいかを問い、視点をもつてレジュメを見ることで、具体的に評価できることや、視点をもつことの大切さに気付かせた。



展開 【手立て②：自分専用のレーダーチャートの作成】

- 図のようなレーダーチャートを配り、生徒一人一人がどの視点で評価してほしいか考えさせた。そして、評価してほしい視点をなぜ選んだのかも生徒に考えさせた。そうすることで、今まで探究の中で生徒の大切にしてきたことを自覚させるとともに、同じ視点で複数の人から客観的な意見をもらうことで、これからの探究に生きると考えた。



終末 【手立て③：深い学びにするために】

- レーダーチャートを作成後、作成したレーダーチャートを交流する時間を設けた。仲間のレーダーチャートを見ることによって、自分では思いつかなかった視点を得たり、自分と同じ視点で考えたりしている仲間を知ったりすることができた。ある生徒は、「〇〇さんが、根拠という視点をもって取り組んでいて、私にはない視点だった。次の探究からは、自分の探究には根拠が少ないから、根拠を明確にしていけるようにしたい。」と振り返った。このように交流することで、新たな視点を持ち、次の探究に取り組む意欲にもつながった。交流した後は、仲間の意見を参考に、レーダーチャートを加筆・修正する時間を設けた。

<板書、生徒の作品、ノートなど>

1/2 評価の視点を明確にするレーダーチャートを作成しよう

<1枚のレジュメ>

- 絵や図 ○
- 文字多々 ×
- 良〜A 悪いA
- 難しいから ×

⇒ 評価の視点

仲間から評価してほしい視点を3つ設定する

評価の視点を明確にすることで、発表者にも聞き手にも分かりやすい発表になる

本時のねらい 自分がこれまでの探究で大切にしてきたことや、生徒版インテンシブ学習に向けて大切にしたいことを踏まえながら、ゼミ内発表会で使用するリーダーチャートを作成することができる。【整理・分析】

本時の展開

<p>過程</p>	<p>本時の学習活動（生徒の意識）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 1枚のレジュメを見て、本時の課題をつかむ。 <ul style="list-style-type: none"> ・何をもって「良い」「悪い」と判断すればいいかわからないから難しいな。 ・絵や図をたくさん取り入れているところは「良い」と思うけど、情報がたくさんありすぎて、見やすさという点においては「悪い」な。 2 ゼミ内発表会で使用する自分専用のリーダーチャートを作成しよう <p>課題 評価の視点を明確にするリーダーチャートを作成しよう</p> <p>これまではデータをもとに探究の信頼性を高めることを大切にしてきたので、「納得できる根拠があるかどうか」の視点は、仲間から評価を受けたいな。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツゼミはこれまで体育館やグラウンドで実際に運動しながら探究を進めてきたので、「実体験を基にした具体例」を提示できそうだな。 ・野球の楽しさを多くの人に伝えるためにテーマを設定して、探究してきたので、自分の探究が相手に伝わるかの「相手意識」は大切にしたいな。 <p>「生徒版インテンシブ学習で1、2年生に向けて」（相手意識）、「1年間の探究を発表する」（目的意識）という、3年生の「とびら」で大切にしたい相手意識と目的意識を踏まえたとの視点を明確にする。</p> 3 作成したリーダーチャートを仲間と交流する。 <ul style="list-style-type: none"> ・○○さんも□□さんも「納得できる根拠」の視点をリーダーチャートに入れていたな。やっぱり根拠は大切なんだな。今度の発表では「根拠」の視点を重点にして仲間から評価をもらいたいな。 ・◎◎さんは、「やってみたいと思えるか」という視点を入れている。僕の「相手意識」をさらに具体的にしているんだな。やっぱりより具体的な視点にした方が評価する側も分かりやすいかな。 4 仲間の意見を参考に、作成したリーダーチャートを加筆・修正する。 5 本時の振り返りを行う <p>次回のゼミ内発表会では、仲間から「～という視点」で評価をもらいたいな。そして、その評価を受けて、生徒版インテンシブ学習では1、2年生に自分の探究を分かりやすく伝えていきたいな。</p>
<p>目標を設定する ↓ 仲間と学び、仲間から学ぶ ↓ 自己を振り返る</p>	<p>指導（○）と評価（◎）</p> <p>○「このレジュメは良いですか、悪いですか」と問うことで、「良い」「悪い」という抽象的な言葉では評価しにくいこと、評価するためには視点を明確にすることの大切さに気付かせるようにする。</p> <p>○『学習の手引き』を用いてリーダーチャートの使うことで、視点が明確になり、評価しやすくなることを確認する。</p> <p>【学習の手引き p51】～「提案性」があり、「魅力的」な発信にする場合～ <発表内容の視点> ①「提案性」があるか②「魅力」のある伝え方ができているか③「私なりの挑戦」があるか</p> <p>【研究（2）に関わって】 レーダーチャートを習得させる単位時間を設定することで、次時以降で生徒が主体的にリーダーチャートを活用することができるようにするとともに、複数の視点から発表を多角的に見たり、焦点化してみたりする探究的な見方・考え方を身に付けられるようにする。</p> <p>○『学習の手引き』に記載されている視点だけでなく、自分で考えた視点を取り入れることで、自分の探究に適したリーダーチャートを作成するように指導する。</p> <p>○視点に迷っていたり、何を書けばよいか分からない生徒に対しては、「発表会で仲間にごどんな意見をもりたいか」「自分の発表の売りはどんなところか」等のように、リーダーチャートを作成することで自分の探究をよりよくすることができていることを指導することで、自分のリーダーチャートにどんな視点を取り入れればよいかをイメージしやすくする。</p> <p>○ペア交流や全体交流を通して、自分が作成したリーダーチャートを見つめ直す時間を設定する。また、加筆・修正する時間を設定することで、発表会で仲間から評価・アドバイスをもらいう視点を一人一人が明確にもてるようにする。</p> <p>【研究（3）に関わって】 仲間とリーダーチャートを交流することで、仲間のよさを取り入れて自分の考えを再構築したり、自分の考えをより強固なものにしたりすることで、自分の考えを深めたり、学習の有用感を味わったりして、自己の生き方を考えられるようにしていく。</p> <p>【評価規準】 ◎これまで探究で大切にしてきたことや、これから大切にしたいことを踏まえながら、リーダーチャートを作成することができる。</p>

評価の観点	整理・分析	単元	「地域の人々が幸せになるために」(2年生)	実践日時	R1年度
本時のねらい	関連、比較などの視点で調べてきたことを交流することを通して、「地域の人々を幸せにする」ための方法を見直し、新たな課題に対して次の具体的な情報収集の仕方が分かる。				

<主体的・対話的で深い学びにつなげる指導について>

導入

【手立て①：考える視点を明らかにする】

- ①各班が調べてきた内容がそれぞれ違うため、共通の視点で話し合うことを理解する。
- ②考える視点を6つ提示し、各班に選択するよう指示する。
- これらの2点をおさえ、各班の考え方や探究内容が「地域の人々を幸せにできるか」どうかを話し合い、今後の情報収集を具体的にしていくことをおさえる。

〈提示した考える視点〉

- ①一人で行える
- ②仲間と協力する
- ③専門家や地域の人と協力する
- ④有効性を発揮するのに短期・中期・長期的なものか
- ⑤規模（人や場所的な要素で必要な規模）
- ⑥実現性（難易度）

展開

【手立て②：思考を可視化するためのツール】

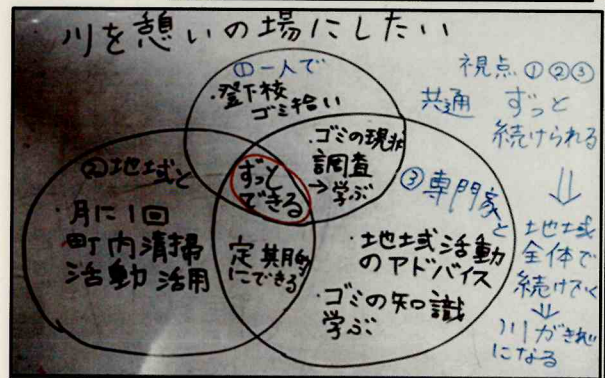
- 各班の提案を受け、視点を選び、話し合いをする。思考を可視化するために、話し合ってきた意見を位置付けるツールを提示する。
- 例えば、視点①②③を選んだ班は、ベン図を用いてまとめることで、「川を憩いの場にしたい」と提案する班に自分達で行える清掃活動や地域の方と協力する活動案、専門家との連携の仕方についてアドバイスする。



終末

【手立て③：今日の学びを明らかにするために振り返る】

- 今日の課題が何で、どのような学びが分かったのかを明らかにすることで、今後の探究の方向性を確認する。



<板書、生徒の作品、ノートなど>

PT課題		自分の追究内容(課題・テーマ)
災害の種類によって何をやるのが具体的に		一人でできることを自治体のHPで調べる
今日の学び		
いろいろな立場で考える視点が必要。例えば、一人で、地域の人、専門家など。さらに地域の人の意識がどうなのか調べたい。		

各PT今後の追究内容		
PT	これからの追究内容	参考にするもの
川PT 水節水	①家庭で節水の実験データをとる (例)蛇口にとりつけるタイプの節水器具を取り付けて、水道代の変化を見る ②1日の水使用量を調べる (例)水道局などのHPで調べる または、自分達の水の利用を書きだして、おおよその量を計算する ③スペースシャトルなどでは、水の節水が必要となるはずなので、宇宙開発などのHPを調べてみる	・電力比較サイト「エネ子エンジン」のHP ・東京都水道局HP ・株式会社水生活製作所HP ・水継学(宇宙での節水についてのHP)

○本時のねらい さまざまな視点で調べてきたことを交流する活動を通して、「岐阜市をよりよくする」ための方法を見直し、新たな課題に対して次の具体的な情報収集の仕方が分かる。

○本時の展開（自分達で調べてきた情報を交流し、整理・分析する中で互いの意見を取り入れながら、探究を深める） 探究を深める

<p>過程</p>	<p>1. 前時までの学習を振り返り、本時の課題をつかむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中間発表を終えて、「岐阜市で生産できる作物を用いて商品開発することが、岐阜市をよりよくすることに繋がっているのか」という根本的な疑問が出てきた。今日はその疑問について、それぞれ調べてきたことを交流し、探究を深めていくぞ。 <p>課題 本時に「岐阜市をよりよくする提案」なのかを見直しそう</p> <p>【考える視点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次の視点で自分達の提案を分析、整理する。 <ol style="list-style-type: none"> ①「一人ですべてできる」②「仲間と協力する」③「専門家や地域の人と協力する」④短期・中期・長期的（有効性）⑤規模（人・場所的要素）⑥実現性（難易度） 	<p>【学習の手引き】～整理・分析 P40～P44</p> <ul style="list-style-type: none"> ・共通点や相違点を見付ける ・関連付けて考える などの汎用的な力を思考ツールによって活用させる。 <p>【ベン図】3つの要素の関連性を考える。ここでは、視点①～③は協力性や知識性、即時性で捉えてもよいが、各PTの捉えで共通点や相違点を見いだす。</p>  <p>【対話的な学びの中で探究を見直すための指導】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○話し合いでは、多角的な見方や考え方で捉え、さまざまな立場の意見を想定して考えるよう指示する。 ○視点に沿って話したり、思考ツールを用いて自分の考えを位置付けたりしている生徒を価値付けする。 <p>【学びどころを位置付けた指導】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○振り返りでは、視点によって、どの思考ツールを使って話し合ったのか、それはなぜなのかを理由を明らかにすることで新たな課題が生み出され、自分達が収集すべき情報な何かが具体的に変わったことを実感できるように、振り返りシートで変容を明らかにさせる。 <p>【評価規準】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○さまざまな視点で情報を整理・分析することを通して、「岐阜市をよりよくする」ための方法を見直し、新たな課題に対して具体的な情報収集の仕方を身につけている。 																		
<p>つかむ</p>	<p>2. PT内で個人課題探究の結果を交流し合う。</p> <p>【視点①～③の話し合い】</p> <p>「岐阜市で生産できる作物を用いて商品開発すること、岐阜市をよりよくすること」</p> <p>→岐阜市で生産できる作物を用いて魅力的な商品や専門家が開発することはできるのか。多くの意見や専門家の意見が必要ではないか。</p> <p>視点①：さまざまな味付けや「インスタ映え」が見る目になるよう試行錯誤する。</p> <p>視点②：多くの人に試食と評価してもらおう。</p> <p>視点③：結菓子の製菓店や枝豆を料理に生かしている料理店など、専門家から直接アドバイスしてもらいながら新たな商品を開発する。</p>	<p>【視点①～③で出た意見を視点④で整理する】</p> <table border="1" data-bbox="638 896 1021 1433"> <tr> <td>早</td> <td>専門家から直接アドバイスしてもらおう</td> <td>早</td> </tr> <tr> <td>即効性</td> <td>インスタ映えを学級の仲間やその家族に評価してもらおう</td> <td>即効性</td> </tr> <tr> <td>遅</td> <td>味付けを試行錯誤する（個人）</td> <td>遅</td> </tr> <tr> <td></td> <td>多くの人に試食と評価してもらおう</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>少</td> <td>多</td> </tr> <tr> <td></td> <td>規模・人数</td> <td></td> </tr> </table> <p>【次時の課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域活動などを提案するには、もっと具体的な活動の仕方や道具、日程調整など地域の実態を調査しないといけない。他県での取組などについて、この地区での川をきれいにする活動にしている提案や川の重要性をどう伝えていくかのプログラムを考えていく。 	早	専門家から直接アドバイスしてもらおう	早	即効性	インスタ映えを学級の仲間やその家族に評価してもらおう	即効性	遅	味付けを試行錯誤する（個人）	遅		多くの人に試食と評価してもらおう			少	多		規模・人数	
早	専門家から直接アドバイスしてもらおう	早																		
即効性	インスタ映えを学級の仲間やその家族に評価してもらおう	即効性																		
遅	味付けを試行錯誤する（個人）	遅																		
	多くの人に試食と評価してもらおう																			
	少	多																		
	規模・人数																			
<p>↓</p>	<p>3. 本時の成果と次への課題を調査活動の分担を話し合う。</p> <p>【本時の成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・川の重要性について、資料をもとに考え、「川は自分達の水の利用や環境に深く関係しているのだから、川をきれいにすることが大切だ」という自分の主張がはつきりした。 ・多くの視点で考えることで、自分達がやるべきことが分かった。 	<p>4. 本時の振り返りを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・持続性の視点で見ると、続かない活動である可能性が見えてきたので、「ずっと続く活動にするには」という課題について探究していくために、他県の自治体や環境庁のHPやパンフレットなどを見て、情報を手に入れたり、実際に清掃活動の経験があるNPO法人に活動の様子を電話で聞いてみよう。 																		
<p>↓</p>	<p>まとめ</p>	<p>まとめ</p>																		

評価の観点	整理・分析	単元	統計グラフを作ろう	実施日時	R3.6.11
本時のねらい	班で決めた探究のテーマについて、「何を伝えるために情報収集したいのか」を明らかにし、統計グラフにしたい項目についての仮説を立てることを通して統計グラフのイメージを具体的にもち、情報収集を始めることができる。				

<主体的・対話的で深い学びにつなげる指導について>

【手立て①：探究する中で大切にしたい視点を明らかにする】

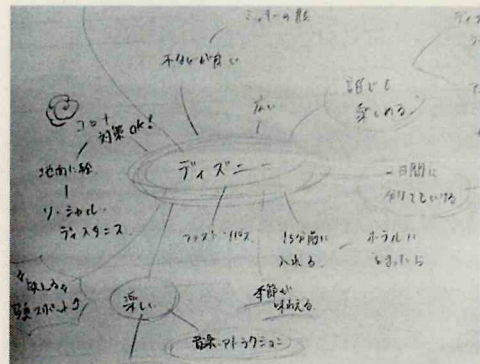
- ・自分たちで、探究テーマを深めていくことができるように、視点を示しておく。話し合いが行き詰っている場合は、教師から視点に沿って助言をする。
- ・過去の統計グラフコンクールの入賞作品の例を示し、5つの視点が大切であることを確認できるようにしたり、グラフのどこに5つの視点が生きてくるのかを実感できるようにしたりする。

〈提示した視点〉

- ①調べる目的をはっきりさせる
- ②根拠を明らかにする
- ③目的に合わせたグラフの使い分けをする
- ④1つの物事を異なる立場や視点から見る
- ⑤「相手意識」と「目的意識」を明確にする

【手立て②：思考を共有するためのプリント】

- ・生徒たちは、考えがあっても伝えることに難しさを感じているときがある。そこで、まずマッピングを使って、自分の考えをまとめさせる。そのために、項目ごとに考えや調べたことをまとめられるプリントを用意する。そうすることで、プリントを見せれば考えを共有することができ、班での活動をスムーズに進められている班が多かった。



【手立て③：学びを振り返り、次の見通しをもつ振り返り】

- ・マッピングを使うことによって、例えば他の生徒からアンケートを取りたい場合、どのような項目で行えば自分たちが明らかにしたい内容になるのか分かった。
- ・今日の一人一人の進捗状況を確認し、本時の振り返りを行う。次回、一人一人が何を行うのかを確認し、見通しをもつことで、班での追究を効率よく進められるようにする。



<板書、生徒の作品、ノートなど>

△ 伝えたいこと → 少し高級なものを扱っている。アイスニの味、アイスニの材料、アイスニの歴史、アイスニの店舗、アイスニの栄養

【作品のよさ】 絵がかわいくていい。色使いがいい。見やすい。	【改善できるところ】 目立たないところは色を消して、見やすいようにしたい。
-----------------------------------	--

□ 伝えたいこと → 外食メニューについて。学校で食べられるメニュー

【作品のよさ】 絵が使われているので見やすい。色使いがいい。見やすい。	【改善できるところ】 目立たないところは色を消して、見やすいようにしたい。
--	--

観点2 → 人気店

【調べた情報】
・コンビニの高士 約80% → 若者が多い (初の利用)
・料亭・クーポン
・メニュー・予約
・支払い方法・時間
・清潔感・居心地の良さ
・料亭の多い10%。コスト48%。料亭は40%。70%240%

○本時のねらい 班で決めた探究のテーマについて、「何を伝えるために情報収集したいのか」を明らかにし、統計グラフにしたい項目についての仮説を立てることを通して統計グラフのイメージを具体的に始め、情報収集を始めることができる。

○本時の展開 (テーマについて様々な視点から考察し、グラフにする項目についての仮説を立てることを通してグラフのイメージを具体的にし、情報収集を始める。)

過程	本時の学習活動 (生徒の意識)	指導 (○) と評価 (◎)
<p>1. 前時までの学習を振り返り、本時の課題をつかむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> 統計グラフには①問題提起をしている ②自分の興味・関心を深めるグラフの2つの種類がある。 審査の基準は、①テーマ選定のよさ ②自分たちで調査や観察をしているか ③統計グラフは正確で、分析的な確か ④調査の結果を基に、自分たちの感想や考察がされているか ⑤表現やグラフが見やすく、丁寧にまとめられているか、の5点があることを自分たちの分析と考察で導き出した。 	<p>◎生徒にいくつか例を提示することで、グラフの種類や審査の観点をも自分たちで分析し、考えることで、統計グラフへの関心を高めたい。</p> <p>◎本時は、前時までに確認したグラフの種類や審査基準を意識しながら、決めたテーマについて、どんな項目のグラフを作成するのか、何を追究していきたいのかを明らかにし、仮説を立てること、立てた仮説を基に、情報収集を始めていくことを伝え、本時の見直しをもたせる。</p>	<p>◎生徒にいくつか例を提示することで、グラフの種類や審査の観点をも自分たちで分析し、考えることで、統計グラフへの関心を高めたい。</p> <p>◎本時は、前時までに確認したグラフの種類や審査基準を意識しながら、決めたテーマについて、どんな項目のグラフを作成するのか、何を追究していきたいのかを明らかにし、仮説を立てること、立てた仮説を基に、情報収集を始めていくことを伝え、本時の見直しをもたせる。</p>
<p>2. 生活班の中で、5つの視点を意識しながら、「何を伝えるために情報収集したいのか」を明確にすること、統計グラフにする項目について考え、仮説を立てることを行う。</p>	<p>【統計グラフにする項目について】</p> <p>生A：自分たちの班は「ながらスママホ」について、問題提起をしたい。</p> <p>生B：ながらスママホの車の事故はよく話題になっているから、ながらスママホの危険性を伝え、事故の減少につなげたい。</p> <p>教：ながらスママホの危険性は分かっていたけど、そもそも、ながらスママホって何？車についてだけ？(視点④)</p> <p>生C：違う気がする…。事故の数が多いいのは、調べた情報から分かっているけど、どんな事故が多いのか分からないから調べないといけないね。(視点②)</p> <p>教：このグラフの相手意識って誰？(視点⑥)</p> <p>生B：審査する先生たちと学年の仲間は車の運転中の危険性について言われてもピンとこないかもね。</p> <p>生D：歩きながらや自転車の運転中に触って起った事故もあるみたい。その危険性も伝えよう。</p>	<p>◎整理・分析～5つの視点 【学習の手引き (P30～P38)】</p> <p>①調べる目的をはっきりさせる ②根拠を明らかにする</p> <p>③目的に合わせたグラフの使い分けを考える</p> <p>④1つの物事を異なる立場や視点から見る</p> <p>⑤昨年の学びを活かし、「相手意識」「目的意識」を明確にする。</p> <p>◎班での活動の際は、机間指導を積極的に行い、上記の5つの視点に沿って助言をする。</p> <p>◎生徒たちが解決策を見いだせるような問いかけを行う。その際、理由を必ず言わせ、根拠のある、具体的な話し合いができるようにする。根拠となりそうな部分を、予め学習の手引きのページ数や板書で示しておく。</p> <p>◎アンケートは何回も取れるものではないため、内容は吟味させる。</p> <p>◎マッピングをする中で、アンケート調査を行う上で必要な項目、質問の中の選択肢の案を出させ、吟味させる。</p> <p>◎次回、アンケートを作成したり、統計グラフの作成に必要な情報を集めたりできるように、本時での一人一人の進捗状況を報告し合う場を取る。そして、次回一人一人が何を行うのかを共通理解し、効率的に班での追究を進められるようにする。</p>
<p>3. 情報収集を始める。</p>	<p>【何を伝えるために情報収集したいのか】</p> <p>生A：ながらスママホによる事故の件数の推移を折れ線グラフで示して、増加していることを示したい。</p> <p>生B：さっきの話、ながらスママホの事故は、車の運転中だけではないよね。どこかにぶつかったり、落ちたという事例もあみたい。その事例についても示したいね。(視点④)</p> <p>教：事故の件数は折れ線グラフで示すとということだったけど、Bさんの視点のグラフはどうする？</p> <p>生D：折れ線だと、変化を示すことになるね。年数毎の変化とか。でも、私たちが示したいのはそうしやなくて、どの事故がどのくらい割合で起きているからだから…</p> <p>生A：円グラフがいいよ。理由は…(視点③)</p>	<p>◎マッピングをする中で、アンケート調査を行う上で必要な項目、質問の中の選択肢の案を出させ、吟味させる。</p> <p>◎次回、アンケートを作成したり、統計グラフの作成に必要な情報を集めたりできるように、本時での一人一人の進捗状況を報告し合う場を取る。そして、次回一人一人が何を行うのかを共通理解し、効率的に班での追究を進められるようにする。</p>
<p>4. 本時の振り返りを行う。</p>	<p>プリントの「探究する観点」に、班で出た意見をメモし、思考の整理ができるようにする。</p>	<p>【評価規準】</p> <p>◎テーマについて様々な視点から考察し、グラフにする項目について仮説を立て、グラフのイメージを具体的にし、情報収集を始めることができる。</p>
<p>まとめ</p>	<p>◎生徒にいくつか例を提示することで、グラフの種類や審査の観点をも自分たちで分析し、考えることで、統計グラフへの関心を高めたい。</p> <p>◎本時は、前時までに確認したグラフの種類や審査基準を意識しながら、決めたテーマについて、どんな項目のグラフを作成するのか、何を追究していきたいのかを明らかにし、仮説を立てること、立てた仮説を基に、情報収集を始めていくことを伝え、本時の見直しをもたせる。</p>	<p>◎生徒にいくつか例を提示することで、グラフの種類や審査の観点をも自分たちで分析し、考えることで、統計グラフへの関心を高めたい。</p> <p>◎本時は、前時までに確認したグラフの種類や審査基準を意識しながら、決めたテーマについて、どんな項目のグラフを作成するのか、何を追究していきたいのかを明らかにし、仮説を立てること、立てた仮説を基に、情報収集を始めていくことを伝え、本時の見直しをもたせる。</p>

評価の観点	まとめ・表現	単元	岐阜市の施設の魅力を伝える パンフレットを作ろう	実践日時	R3. 6. 17
-------	--------	----	-----------------------------	------	-----------

本時のねらい 学級の仲間と制作したパンフレットを交流することを通して、3つの観点から自分たちに必要な改善点に気づき、より相手に伝わるパンフレットにするための見直しをもつことができる。

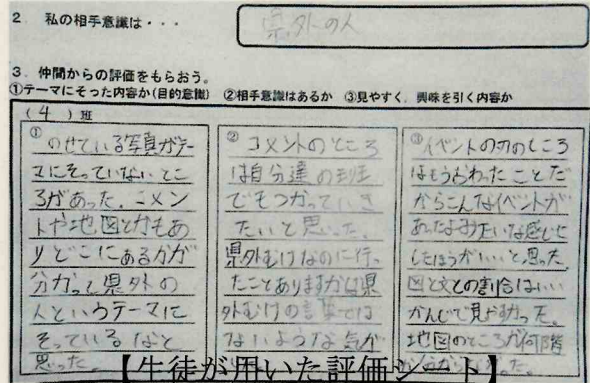
<主体的・対話的で深い学びにつなげる指導について>

【手立て①：目的意識・相手意識を大切にした指導】

・1年生のとびらの探究テーマを通して、常に目的意識(どれだけ自分や誰かのためになるか)、相手意識(誰のために何を提案するのか)を大切に、生徒に意識づけをしながら指導を行った。一つ一つの活動が最終的に何につながっているのか、なぜこの活動を行っているのか、生徒が活動に対して見直しをもったり、必然性を感じたりしながら取り組むことにつながった。

【手立て②：観点ごとに評価するワークシート】

・学級内で互いのパンフレットを評価する際に観点ごとに良い点や改善点を書き込めるワークシートを用いた。観点を絞り込むことにより、パンフレットのどの部分に着目すればよいか明確になり、活発な意見交流をすることにつながった。



【手立て③：深い学びにするために】

・観点ごとに他の班のパンフレットに対して、評価を行うことを通して、評価する側の生徒も「まとめ・表現」の学びを深められるようにした。そうすることで、客観的に他の班の良い点や改善点を見つけられただけでなく、自分たちの班の作品にも取り入れられるようにしていこうとする思いを育てることができた。また、班内の司会者を交代しながら行うことで学級全員が考えを深められるようにした。



【学級内でのパンフレット交流の様子】

<板書、生徒の作品、ノートなど>



○本時のねらい 学級の仲間と制作したパンフレットを交流することを通して、3つの観点から自分たちに必要な改善点に気づき、より相手に伝わるパンフレットにするための見直しをもつことができる。【まとめ・表現】

○本時の展開

過程	本時の学習活動（生徒の意識）	指導（○）と評価（◎）
つ か む ↓	<p>1. 前時までの学習を振り返り、本時の課題をつかむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ これまでに岐阜市科学館・岐阜県立図書館について調べてきたことをパンフレットにまとめてきた。そのパンフレットは見る人にとって本当に見やすいものになっているか学級の仲間に見てもらおう。 ・ 仲間はどのような視点をもとにパンフレットを作成しているのだろうか。 <p>課題 仲間のアドバイスから、自分たちのパンフレットを3つの観点から分析しよう</p>	<p>○前時までに「目的意識」「相手意識」を大切にしながら岐阜市科学館・岐阜県立図書館のパンフレットを作成してきたことを振り返る。</p> <p>○本時は班で作成したパンフレットを学級の仲間に見てもらおうと、それぞれの良い点や改善点に気づき、さらによりよいものを作ってこうとするとする態度を育てる。また、学年で行う発表会に向けて今後どのような学びをしていけば考えられることができる。</p>
↓	<p>2. 3つの観点について考え、話し合う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>①<テーマに沿った内容か(目的意識)></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 魅力を伝える情報になっているか。 ・ 単なる紹介になっていないか。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>②<誰に対して発信する内容か(相手意識)></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 対象の年齢に漢字は合っているか。 ・ 相手が必要としている情報なのか。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>③<見やすく、興味を引く内容になっているか></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 文字30%、図や写真70%になっているか。 ・ 図や写真やイラストは効果的に使われているか。 </div>	<p>【学習の手引き】 ～まとめ・表現 P55～56</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ パンフレットを作る場合 ・ 仲間の発表にアドバイスする場合
↓	<p>3. 班ごとに自分たちのパンフレットと評価シートを回し、観点ごとに評価し合う。</p> <p><より相手に伝わる発表にするための交流について></p> <p>観点①岐阜市科学館で行われていないイベントや特徴を情報として入れた方がよいと思うな。</p> <p>観点②相手意識を小学校低学年の子として考えているなら、少し難しい漢字や言葉が多い気がする。もっと簡単な言葉を使ったり、短い文章にしたり、修正した方がよいと思うな。</p> <p>観点③文字が多いと思うな。読む人を引きつけるようなイラストや施設の様子に分かる写真を入れた方がいいのではないかな。</p>	<p>【他者との関わりの中で探究を見直すための指導】</p> <p>○班で観点ごとに話し合うことで、他の班のパンフレットのよさや改善点を具体的に明らかにしていくことができるようにする。</p> <p>○1つの班のパンフレットごとに司会者を交代していくことで、学級全員が「まとめ・表現」について学びを深めることができるようにする。</p>
↓	<p>4. 仲間が記入した評価シートを見て、良かった点・改善点を明らかにする。</p> <p>・ 観点①で、自分は文章と写真のパンフレットだけだったけれど、地図を付けていくと関連したものになり見やすくなるな。</p> <p>・ 観点②で、対象年齢として小学生を考えていた。小学生でも1年生と6年生では字の大きさや絵の種類を考えるといかないとはいけないな。</p>	<p>【深い学びを生み出すための指導】</p> <p>○より相手に伝わるパンフレットにするための交流の観点として、「目的意識」「相手意識」「見やすさ」を位置付ける。より相手に伝わりやすいパンフレットにするためにはどのような部分を改善していけばよいかを考えることを通して、助言する側のまとめ・表現に対する学びを深められるようにする。</p>
↓	<p>5. 本時の振り返りを行う。</p> <p>・ 今日の学習では、学級の仲間自分たちが作ったパンフレットを観点ごとに見てもらいました。目的意識の点では、施設の魅力を伝える情報を入れることができている。しかし、相手意識の点では読む相手のことを考えた書き方が必要であるということが分かりました。学年で行う発表会に向けて、パンフレットを改善していきたいと思えます。</p>	<p>【評価規準】</p> <p>◎ 仲間に観点に対してのアドバイスをしてもらうことを通して、より相手に伝わるパンフレットを作成するためにはどのような点を改善していくのか、考えることができる。 【まとめ・表現】</p>
↓	<p>まとめ</p>	<p>○次時に向けて、交流で得られた成果や課題を踏まえ、調べる必要がある情報や改善が必要な部分を明らかにしていく。</p>